

会 議 録（要 旨）

|  |  |
|--|--|
| 会 議 名  | 第2回武蔵村山市市民協働推進会議   |
| 開 催 日 時  | 平成28年4月28日（木）午後6時～ 9時  |
| 開 催 場 所  | ボランティア・市民活動センター会議室   |
| 出 席 者 及 び<br>欠 席 者   | 出席者：（委員）渡辺龍也、北口良夫、高橋誠、清野智美、比留間多一、<br>本間由美子、前田啓子、比留間毅浩<br>欠席者：高尾典之<br>傍聴者：2名<br>（事務局）協働推進課長、協働推進課主査、協働推進課主事   |
| 議 題  | 議題1 平成27年度武蔵村山市協働事業提案制度実施事業報告会及び評<br>価等について<br>議題2 事業評価について  |
| 結 論<br>(決定した方針、残され<br>た問題点、保留事項<br>等を記載する。)  | 議題1 平成27年度武蔵村山市協働事業提案制度実施事業報告会及び評<br>価等について<br>事業実施団体から事業の報告を行い、各委員から事業について質<br>疑応答を行った。<br>議題2 事業評価について<br>報告のあった3事業について、委員の意見交換等を行った。<br>報告書については事務局で各委員の意見を取りまとめて後日各委<br>員に送付し、内容を確認する。その後の修正については座長及び副<br>座長に一任する。   |
| 審 議 経 過<br>(主な意見等を原則と<br>して発言順に記載し、<br>同一内容は一つにまと<br>める。)<br><br>(発信者)<br>□印：座 長<br>○印：委 員<br>●印：事務局<br>△印：提案団体<br>▲印：市担当課<br>◎印：一般参加者 | 議題1 平成27年度武蔵村山市協働事業提案制度実施事業報告会及び評<br>価等について<br><br>(平成27年度武蔵村山市協働事業提案制度実施事業報告会)<br><br>団体名：グラシオスプラントパートナー<br>事業名：武蔵村山市を花と緑であふれる素敵なまちにして癒しの景観を<br>創る<br>市担当課：環境課 公園緑地グループ<br><br>-実施団体による報告-<br><br>質疑応答<br><br>○ 担当課の自己評価と差が見られる。<br>▲ 事業運営にあたり、特に問題なく進められた部分については3点をつ<br>けている。団体は同じ考えで5点をつけているので、評価基準に差<br>があった。<br>○ 市担当課の自己評価書の中で、「地域の課題解決につながったか」<br>という項目が2点である。<br>▲ 27年度の事業は公共施設を中心に行ったので、市全体において課<br>題解決につながったわけではないと判断し、2点をつけた。<br>□ 講習会参加者は20名とあるが、先程の説明ではもっと参加者が多 |

かった。

- △ 協働事業として実施した講習会の参加者は20名だった。団体が独自に実施している講習会は、延べ100名以上の参加がある。
- 本報告会では、協働事業に関する報告としていただきたい。
- 収入の助成金とは何か。
- △ 東京都の助成金である。3年間申請することができ、1年目は10万円、2年目と3年目は5万円の助成を受けることができる。
- 公共施設での植栽は、協働事業終了後も継続するのか。
- △ 各施設が必要性を認め、依頼があるのなら継続していきたいと考えている。
- 行政から依頼を受けた事業を実施するだけでは、単なる下請けになってしまう。協働事業として、市全体に広める道を模索していただきたい。
- 低評価になっている役割分担について詳しく教えていただきたい。
- △ 役割分担について、認識のズレがあり当初は上手くいかない部分があった。担当者が変更した際に役割分担についてもう一度確認し、お願いできることとできないことを明確にした上で事業を実施するべきであったと思い3点にした。
- 改善点を修正したとあるが、具体的にどのようなことか。
- ▲ 公園緑地グループは日頃から電話対応業務が多く、また電話機も1台しかないことから、講習会の電話受付についてはお断りした。今年度は電話機を1台増やしたことで、電話受付に対応することができるようになった。
- 市民からの苦情要望の中で、協働事業に関するものはあるのか。
- ▲ 協働事業として実施したわけではないが、公園に花壇を作ってほしいという要望があり、市内の小中学生と一緒に花壇を作った。
- 消耗品費が当初より多くなっている。
- △ 助成金や講習会費により収入が増え、花を多く買ったためである。
- 団体の組織力について伺いたい。植栽や花育について、一般市民に教えられるだけの技術や知識を持った会員は何名いるのか。
- △ 会員は全部で20名であり、そのうち植栽の資格を持っているのは6名である。
- 協働事業を始めた当初の会員数は。
- △ 5名である。
- 決算書の自己財源とは何か。
- △ 会費である。
- 人件費と報償費の違いについて教えていただきたい。
- △ 人件費は、植栽等の作業を手伝ってくれたスタッフに支払った経費である。報償費は、植栽や講習会の講師として、団体の代表が受け取った経費である。
- 人件費の割合が高い。作業の手伝い希望者全員に人件費を支払うのではなく、会員として事業に携わった人に支払うべきである。
- 水道引込み工事は28年度も行うのか。
- △ そのとおり。
- 「事業スケジュールに問題はなかったか」という項目について、担当課の自己評価が2点になっている。
- ▲ 27年度の反省や課題を踏まえ、28年度に向上の余地があると考え、2点をつけた。
- 担当課は協働事業について第三者的な立場と考えているように感じる。協働事業は市と団体が対等な立場で実施するものであるので、当

事者意識を強く持って取り組んでいきたい。

団体名：武蔵村山市ハンドボール協会  
事業名：ハンドボールトップアスリート等派遣指導事業  
市担当課：スポーツ振興課 スポーツ振興グループ

-実施団体による報告-

質疑応答

- 1回の事業時間は。
- △ 45分間である。1小は5、6年生の4クラス、9小は4年生の2クラスで実施した。
- 子ども達に実施したアンケートの内容は。
- △ 「ハンドボールをやってみてどうだったか」「また機会があったら参加したいか」「スポーツの経験はあるか」などである。
- 団体の自己評価書の中で、「事業スケジュールに問題はなかったか」という項目が3点である理由は。市担当課の自己評価書では5点である。
- △ 当初は市内のハンドボール指導者にアシスタントを依頼していたが、直前に断りがあり、急きょ代役を立てたためである。市担当課の見えないところで準備が遅かった部分があった。
- 業者からの脱却とは、トップアスリートと呼ばないということか。
- △ 派遣業者を介さず、トップアスリートに直接交渉できるようにしたいということである。
- 委託料とはトップアスリート派遣にかかった経費か。
- △ そのとおり。
- 決算書で、保険料がゼロになっている。
- △ スタッフは元々スポーツ保険に加入していたので、新たに保険に加入する必要がなかった。小学生は学校の保険が適用されるため、新たに保険に加入する必要がなかった。
- 人件費が当初より高くなっている。
- △ アシスタントの派遣を委託料から外し、自前で呼んだためである。
- 委託料が減っても人件費が増えているのでは意味がないのではないか。
- △ 市内のハンドボール指導者にアシスタントを務めてもらえると良かった。
- トップアスリートと直接交渉することができれば、金額はどれくらい下がるのか。
- △ 具体的にどれくらい下がるかは分からないが、今後深い関係を築いていく事が重要であると考えている。
- 今後は協働事業ではなくなるため代替案を検討中とあるが、具体的なアイデアはあるのか。
- △ スポーツ振興課に相談しているところである。学校との交渉等を団体だけで行うのは難しく、行政を通すことで円滑に進められると考えている。
- 市担当課の意見も伺いたい。
- ▲ 本事業を通して子ども達がトップアスリートから技術だけでなく人間性等を学ぶことができた。学校からの人気も高く、良い事業ができ

たと考えている。3年間の内に市内全小学校で実施したいと考えていたので、実施できなかった学校が一つあったのは残念である。

- 事業の目的は果たせていたか。
- △ ハンドボールを一つのきっかけとして子ども達がスポーツに触れることで、健全育成につなげることが目的であり、一定の成果は果たせていたと考えている。
- 市の事業に取り入れる予定はあるのか。
- ▲ 市の事業として実施することは現在のところ考えていない。オリンピックの開催に絡め、スポーツ全般の振興を考えている。団体には独立した活動を期待している。
- アンケートから、今後の課題や改善点は見つかったか。
- △ ハンドボールを教えられる先生が少ないので、先生への指導が重要であると考えている。また、45分間という時間について、物足りなさを感じている子どもが多いので、2クラスを一緒に実施するなどの工夫が必要であると考えている。

団体名：武士団・村山党の会

事業名：中世・村山郷を中心に活躍した「武蔵武士団・村山党」を活かした地域おこし

市担当課：産業観光課 観光グループ

-実施団体による報告-

質疑応答

- 作成した甲冑の数は。
- △ 子ども用の物や、かぶとなどの一部分の物も含め、18領である。
- 消耗品費が当初より高くなっている。
- △ 当初は甲冑の材料費とその他の消耗品を分けていたが、決算で合わせたためである。
- 「効率的なコストで事業運営ができたか」という項目が3点になっている理由は。
- △ 協働事業1年目であり、試行錯誤しながらの実施であった。途中で甲冑の材料を変えるなどの経緯があったためである。
- 担当課の自己評価の中で、「協働相手は妥当だったか」という項目が2点になっている。
- ▲ 当課の主業務は観光振興である。協働事業の中には郷土史講演会があり、歴史や文化を学ぶことが主目的だとすると、協働相手にふさわしいのは文化振興課ではないかと考えた。
- △ 一番の目的は、町おこしである。そのための人材を育てる一環として郷土史講演会を実施した。協働事業では一つの課としか協働できないが、文化振興課とも連携できたら良いと考えている。
- 団体の活動の最大目的は何か。
- △ 村山党が実際に分布した周辺地域と連携し、それぞれの地域のイベントに参加できるようにし、歴史や文化に基づき観光振興を行っていききたい。
- 当面は市内イベントでのPRを続けていくのか。
- △ 28年度は周辺地域のイベントにも参加し、甲冑教室や郷土史講演会の参加者増加を目指す予定である。

|  |   |
|--|---|
|  | <p>○ 甲冑 1 体あたりの作成費はどの程度か。<br/> △ 細かい部品まで全て揃えると、4～5万円程度である。<br/> ○ 地域の活性化や観光振興を目指す他の市内団体との連携は考えないのか。<br/> △ 他の団体のキャラクターをイラストした甲冑などを検討している。一緒に武蔵村山市を盛り上げていけたら良いと考えている。<br/> □ もっと担当課と密に連携したいとはどのようなことか。<br/> △ 産業観光課が所管する事業への参加や協力が27年度は少なかった。28年度は積極的に参加したいと考えている。<br/> ▲ 市の新たな観光資源につながる事業であるので、今後は産業観光課が所管するイベントにも是非参加していただきたいと考えている。<br/> ○ 協働事業における役割分担を教えてください。<br/> △ 甲冑教室の場所の確保、市報への掲載やSNSへの投稿による事業の広報を担当課にやっていただいた。<br/> □ 作成した甲冑はどこに保管しているのか。<br/> △ 現在は会員の家で保管しているが、市の空き倉庫などあれば借用したいと考えている。<br/> ▲ 協働相手として出来る限りの工夫はするが、市の施設は余裕がないのが現状である。<br/> ○ 甲冑の材料はダンボールを使用しているのか。<br/> △ 当初はダンボールを使用していた。防水や耐久性を考慮し、現在は別素材で作成している。<br/> □ 村山党にゆかりのある地域との交流やネットワーク作りを目指しているとのことだが、27年度は館山や板橋など遠くの地域に出ている。<br/> △ 館山と板橋は、甲冑作成にあたり技術指導を受けるために行った。近隣地域へのPRや連携も行っている。<br/> □ 若い会員はいるのか。<br/> △ 中学生が2人いるほか、小学生も甲冑教室に参加している。</p> <p>議題2 事業評価について</p> <p>-非公開-</p> <p>その他</p> <p>● 各事業への意見については事務局が案を作成し、後日委員に送付するので、内容を御確認いただきたい。その後の修正は座長及び副座長に一任し、市長への報告は6月上旬に行う。</p> |
|--|---|

|                    |   |
|--------------------|---|
| <p>会議の公開・非公開の別</p> | <p>□ 公開<br/> <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開<br/> □ 非公開</p> <p>傍聴者： _____ 2 人</p> <p>※一部公開又は非公開とした理由</p> <p>（ 事業の評価過程を明らかにすることで公正な事務を行えなくなるおそれがあるため。 ）</p> |
|--------------------|---|

|                  |  |
|------------------|--|
| 会議録の開示・<br>非開示の別 | <input type="checkbox"/> 開示<br><input checked="" type="checkbox"/> 一部開示（根拠法令等：武蔵村山市情報公開条例第8条第5号）<br><input type="checkbox"/> 非開示（根拠法令等：） |
|------------------|--|

|       |                      |
|-------|----------------------|
| 庶務担当課 | 協働推進部 協働推進課（内線： 242） |
|-------|----------------------|

（日本工業規格A列4番）